

2025年08月04日
事前説明会

千葉大学GAPファンドプログラム

なのはな コンペ

2025

採択者

最大100万円の
支援金と専門家の
サポートプログラム



可能性を、 実現する

募集期間

8.5^⑦
— 9.5^⑧
12:00

千葉大学大学院国際学術研究院 教授 /
千葉大学アントレプレナーシップセンター 事業統括
片桐 大輔 KATAGIRI Daisuke



CHIBA
UNIVERSITY

概要

- 求める研究内容：研究のための研究ではなくて事業化のための研究

「なのはなコンペ」は千葉大学アントレプレナーシップセンターが、本学研究者や大学院生のアントレプレナーシップ（起業家精神）を高めるとともに、研究成果・技術シーズの事業化に必要なエッセンスの提供を進め、大学発スタートアップの創出を促進するために主催しています。

書類とショートプレゼンテーション（発表）の**2段階の審査**により採択されます。

1件最大100万円、3件程度の採択を予定しています。

採択者には採択後速やかにGAP資金を助成します。GAP資金助成後、約4か月間**実証**したのち2月

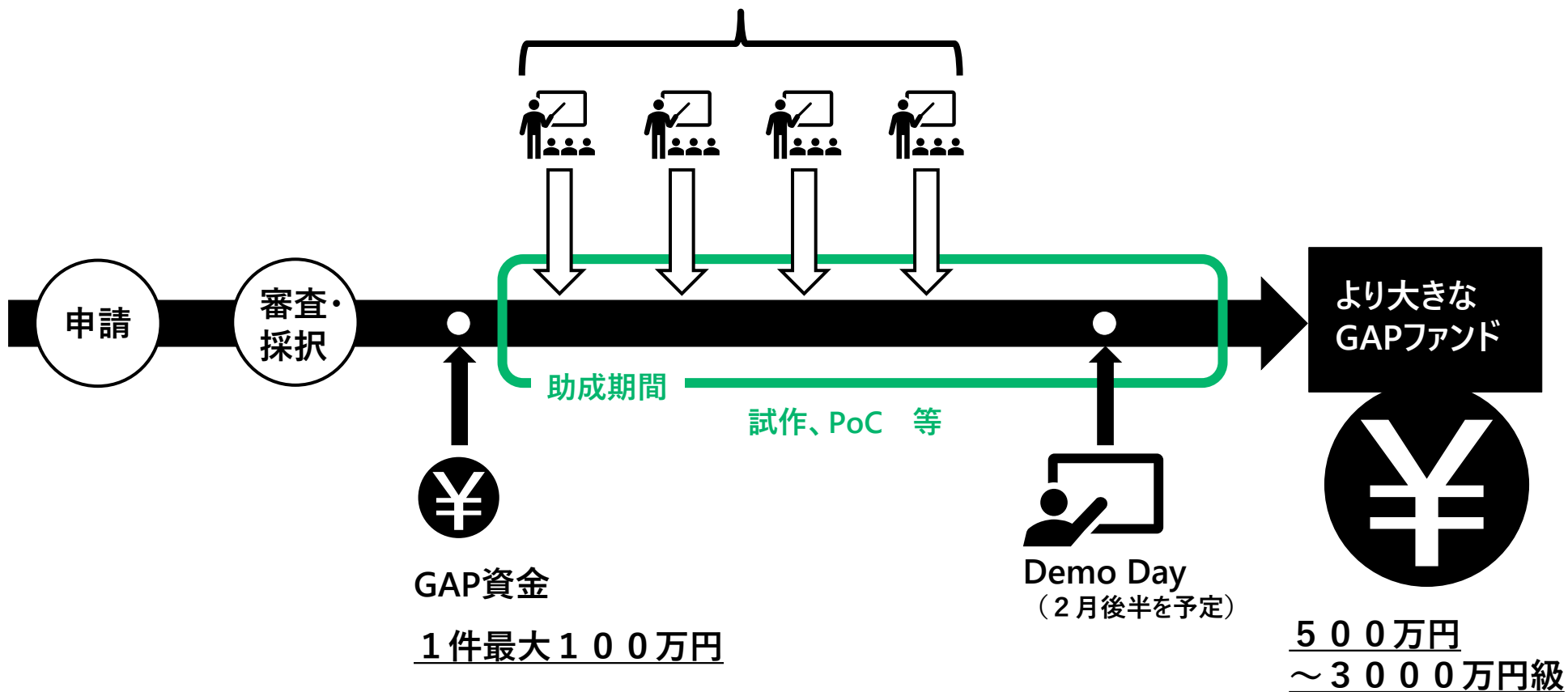
に**Demo Day（成果報告）**を行います。また、実証期間中にはセンターが監修

する**アクセラレーションプログラム**による座学と演習を受講します（必須）。

GAP資金について

- 研究成果の事業化に向けて、検証・実証に幅広く活用可能

アクセラレーションプログラム（全4回）
（2025年11月～2026年1月）



アクセラレーションプログラムの様子

- 計4回実施
- 採択者からは起業（1件）、より大きなGAPファンド申請（2件）などの成果が出ている



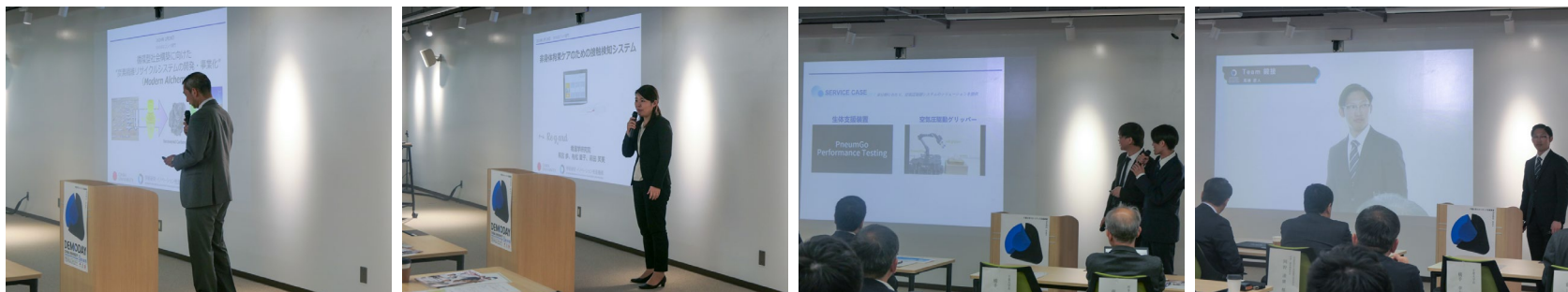
DemoDayの様子

- 地域金融機関さま、連携企業さま、見学学生、研究者等、多くの参加の中で開催



DemoDayの様子

- 地域金融機関さま、連携企業さま、見学学生、研究者等、多くの参加の中で開催



テーマ	チーム名	研究代表者	助成金額	研究室
人工模擬患者サービスのための大規模言語モデル用プロンプト開発 起業 株式会社OPQRST	チーム総診	医学部附属病院 特任助教 柳田育孝 医学部附属病院 助教 横川大樹	100万	Research Map (柳田先生) Research Map (横川先生)
構造制御された炭素材料	-	大学院工学研究院 准教授 山田泰弘	100万	Carbon Material's Group
がんサバイバーのQOL向上につながる「測定・治療一体型医療機器LTマッサージ」の開発・事業化	-	工学部 学部4年 浅野航太 工学部 学部4年 菊島有二郎 融合理工学府 博士 後期課程1年 唐逸群	100万	千葉大学 武居研究室

過去の採択者 2024年度

テーマ	チーム名	研究代表者	助成金額	研究室
循環型社会構築に向けた“炭素繊維リサイクルシステム”の開発・事業化	Modern Alchemy (和嶋研究室)	大学院工学研究院 准教授 和嶋 隆昌 採択 GTIE-GAPファンド エントリーコース第3回	50万	千葉大学 和嶋研究室
非身体拘束ケアのための接触検知システム開発	Re guard / 雨宮研究室	大学院看護学研究院 講師 雨宮 歩	100万	千葉大学 雨宮研究室
新しい方式の3Dプリンター 鍛接3Dプリンター	チーム鍛接	大学院融合理工学 府 修士1年 高橋直人	100万	千葉大学 加工物理学的研究室
PneumGo-空気圧制御システムソリューション	Team AirTech (兪研究室)	大学院融合理工学 府 博士3年 周 忠潮	50万円	フロンティア医学工学センター 兪 研究室

全体スケジュール

- 募集期間 8月5日（火）～ 9月5日（金）12:00
- 説明会 8月4日（月）12:00～13:00 本日！
- 1次審査（書面） 9月8日（月）～ 9月12日（金）
- 2次審査（発表） 9月16日（火）～ 9月26日（金）
（この期間中に発表者の都合を考慮して調整の決定）
- 採択 10月上旬（予定）
- 実証 10月～3月
- アクセラレーションプログラム全4回（2025年11月～2026年1月）
 - Day1：ビジネスモデルと研究成果の事業化 / 顧客と顧客価値の設定について
 - Day2：事業計画と資本政策① 座学/グループワーク
 - Day3：事業計画と資本政策② 座学/グループワーク
 - Day4：プレゼンテーショントレーニングとDemo Day 準備
- Demo Day（成果報告） 2月後半

参加資格

- ① 千葉大学の教職員・学生であること。
- ② 学生の場合は研究室に所属していること、または、チームで参加する場合は代表者の学生が研究室に所属していること（代表者以外は研究室に所属していなくてもよい）。
- ③ 製品・サービス化が可能な、ご自身（または研究室）の研究・技術シーズを持っていること（特許出願など知財があると望ましい）
- ④ アクセラレーションプログラム（2025年11月～2026年1月を予定）に参加ができること（チームで申請の場合、少なくともチームメンバーの1名以上が参加すること。）
- ⑤ 申請は、1人（1チーム）1件とする。
- ⑥ チームで参加する場合は、3名/チーム以内とする。

●※「第22回なのはなコンペ2024」に採択された方は申請できません。

●※大学院生の参加者は、用いる研究・技術シーズや内容について、事前に指導教員の了解を得てください。

申請方法

千葉大スタートアップ・ラボHPの「第23回なのはなコンペ2025」特設ページにアクセスして、募集要項・申請書類を手に入れてください。申請書類を記入の上、メールにて下記、送信先に送信して下さい。

「第23回なのはなコンペ2025」特設ページ

<https://entrepreneurship-center.chiba-u.jp/program/232025.html>

問い合わせ・申請書送信先

千葉大学アントレプレナーシップセンター 川原・海老原

kyoki-entre@chiba-u.jp

- 採択決定：10月上旬を予定（3件程度を予定）
- 本人へメール & アントレプレナーシップセンターHPに掲載

Appendix

可能性を、 実現する



CHIBA
UNIVERSITY

主催 | 千葉大学アントレプレナーシップセンター

← Check website
<https://entrepreneurship-center.chiba-u.jp/enterprise/nanohana2025/>

募集期間
8.5(火) — 9.5(金) 12:00

9月上旬 1次審査
9月中旬 2次審査・ショートプレゼン
10月上旬 採択決定・GAP資金支給
10月上旬 実証
2月後半 成果報告
さらに本格的な事業支援へ

千葉大学GAPファンドプログラム

なのはな コンペ 2025

千葉大学の大学院生・研究者の
スタートアップ創出を、多方面から応援します。

採択者 最大100万円の支援金と
専門家のサポートプログラム

GAPファンドは、大学発のスタートアップを目指す研究者や学生を支援するプログラムで現在は大きく3種類のコースがあります。「エクスプロール」では技術シーズの社会実装を目指し、「エントリー」では初期段階のビジネス化を検証、さらに「海外市場開拓実践」では国際展開を支援します。



エントリーコース



エクスプロールコース



海外市場開拓実践コース

GAPファンド2022

そもそもGTIEとは？

首都圏を中心とした大学からなる

『世界を変える大学発スタートアップを育てる』プラットフォーム

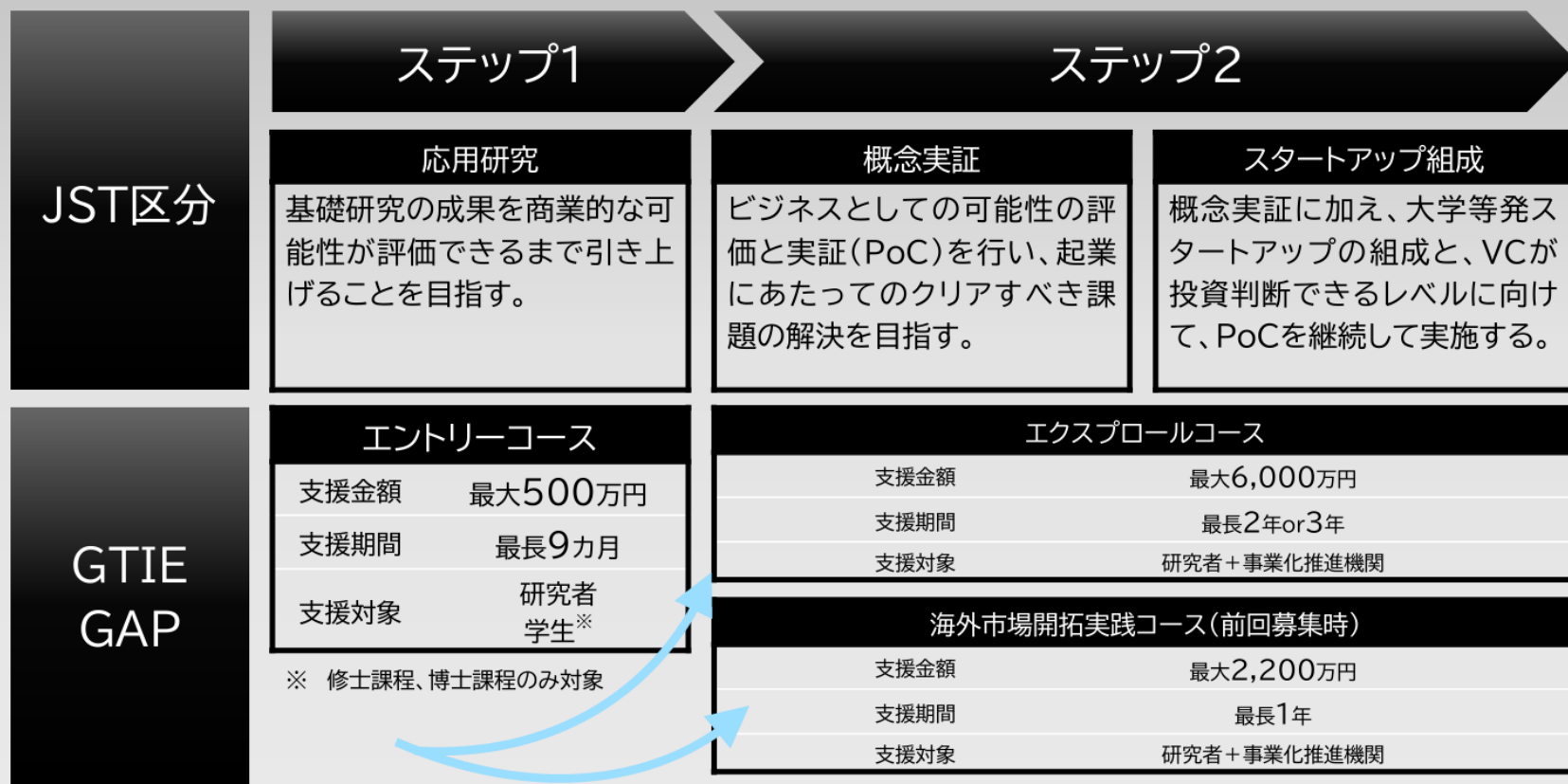
主幹機関		
東京大学	早稲田大学	東京科学大学
SU 創出共同機関		
筑波大学	千葉大学	東京農工大学
横浜市立大学	神奈川県立保健福祉大学	慶應義塾大学
東京都立大学	芝浦工業大学	東京理科大学
茨城大学	電気通信大学	東海大学
理化学研究所	横浜国立大学	産業技術総合研究所

『Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE：ジータイ)』は、東京大学・東京科学大学・早稲田大学を主幹機関とした『世界を変える大学発スタートアップを育てる』プラットフォームです。東京都等が幹事自治体となり、18の大学と3つのスタートアップ支援機関から構成される共同機関と、民間企業、大学や自治体等が協力機関として参画しています。

GTIE GAPファンドとは？

研究成果と事業化の間のギャップを埋めるため、事業化に向けて達成すべきマイルストーン（研究開発および事業化に 向けて節目となる中間目標）を設定し、ビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品製作、仮説検証のためのデータ（実験 結果、計算結果）等の整備を進めるための資金（GAPファンド）をはじめ、採択された研究開発課題に対しては、研究代表者が所属する大学等の起業支援人材が伴走型の支援を提供します。

GTIE GAPファンドでは、起業フェーズごとに複数のコースを募集。



エントリーコース

基礎研究の成果について、 ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げることを目指します。

研究開発の内容は、基礎研究の成果と事業化のギャップを埋めるために、一般的には試作品開発、仮説検証のためのデータ取得（実験結果、計算結果）、ビジネスモデルの構築、知財の確保、経営チームの構築等が中心となります。（技術分野や起業を目指す事業分野によって大きく異なります）

支援内容

研究開発費：**最大500万円**（直接経費のみ）。最長9か月。

起業支援人材による伴走支援体制。

マイルストーン設定による進捗管理（事業開発・研究開発の両面）。

目指す成果

起業に向けたステップ2以降のGAPファンド応募、または他支援プログラムへの移行

対象とする技術シーズによりビジネスとしての可能性を評価できる。

社会還元を目指す大学発スタートアップの創出

エクスプロールコース（2年／3年）

大学等の技術シーズを基に事業化し、社会的・経済的インパクトを生む起業を目指すとともに、SDGsの達成や地域の社会課題解決に資することを目指します。

ビジネスとしての可能性の評価や実証（PoC）から、スタートアップ組成に向けてPoCを継続的に実施、実際に起業に至るまでのステップです。事業化推進機関（VC等）が共同で実施する体制を採り、同機関のプロジェクトマネジメントのもと推進します。

支援内容

研究開発費：最大6000万円（直接経費に加え、特許関連経費も含む）。

2年コース | 年目3,000万円、2年目3,000万円

3年コース | 年目1,500万円、2年目1,500万円、3年目3,000万円

専門的な事業化サポート（市場調査、特許戦略の構築など）。

毎年度の進捗評価に基づく柔軟な研究開発計画の調整。

必要に応じた民間資金調達の支援。

目指す成果

技術の事業化：革新的な技術シーズの社会実装を進める。

グローバル展開：国際市場で競争力を持つ製品やサービスを創出。

社会課題への貢献：SDGsの目標達成や地域課題の解決に寄与。

持続的な成長：民間資金の活用により、自立したスタートアップの成長を促進。

海外市場開拓実践コース

革新的技術シーズを核にグローバル市場への展開を目指す大学等発スタートアップを創出するため、海外展開に向けた研究開発課題を支援します。通常の GAP ファンドプログラムとは異なり、想定する海外市場（顧客やパートナー）にコンタクトをとります。要求に応えるための研究開発目標をマイルストーンとして設定、実現を図るための研究開発を実行するバックキャスト型のプログラムです。

事業化に向けて、技術シーズの成熟度を高めてから知財戦略やビジネスモデルを考えるモデルではなく、当初から社会課題等のニーズや市場規模・動向を踏まえたビジネスを見定めたうえで知財戦略と研究開発を一体的に行うビジネス反映モデルを意識して推進。事業化推進機関（VC等）が共同で実施する体制を採り、同機関のプロジェクトマネジメントのもと、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルを有するディープテック・スタートアップの創出を目指した取組を推進します。

支援内容

米国のStanford大学のアクセラレーターStartXと連携して実施。

研究開発費：最大2200万円（直接経費に加え、特許関連経費も含む）。

年度前期最大1,000万円・年度後期最大1,200万円

（採択件数により金額を決定。中間のマイルストーン評価で後期進出案件の選抜を行い、選抜件数に応じて年度後期の金額を判断⇒増額の可能性あり）

専門的な事業化サポート（市場調査、特許戦略の構築など）。

毎年度の進捗評価に基づく柔軟な研究開発計画の調整。

必要に応じた民間資金調達の支援。

目指す成果

海外のKOL（Key Opinion Leader）、ポテンシャルパートナーとコンタクト。研究開発実行し、要求されるデータや試作品の開発などを行う。

海外市場開拓戦略に基づき、研究開発成果を活用したパートナーとの連携交渉を通じて海外事業展開の糸口を作る。

コース名	支援期間	採択件数 (目安)	支援金額 (上限)	対象	主なポイント
エントリー	約 6 か月～ 1 年未満 (約9か月)	約10件	～500万円	初期段階の事業化検討。 GTIEの主幹機関もしくは SU創出共同機関に所 属する研究者（修士/ 博士課程の学生含む）	特定の分野を指定せず、SDG s の 達成や 地域の社会課題にも資 するもののうち起業を検討する提案 を幅広く募集。
エキスポール (2年)	2 年	最大 4 件程度	～6,000万円	大学発スタートアップを目 指す研究者・学生 + 事 業化推進機関※	大学等の技術シーズを基にした SDG s の達成や地域の社会課題 解決に資する。 バイオ・医療、ヘルスケア、アグリ、 材料等のディープテック分野を募集。
エキスポール (3年)	3 年	最大 8 件程度	～6,000万円	大学発スタートアップを目 指す研究者・学生 + 事 業化推進機関※	ビジネス可能性の評価と実証。最 終的にVC投資判断レベルの起業 を目指す。
海外市場開拓 実践	1年間	最大3件 (2025年)	～2,200万円	大学発スタートアップを目 指す研究者・学生。た だし、海外市場への展開に 必要なデータや試作品を 保有していることが条件。	海外市場開拓に焦点を当てた実 践的なフェーズ。バックキャスト的な アプローチ。

※事業化推進機関とは 大学発スタートアップを支援するために選定される機関、主に研究代表者と連携して起業に向けた事業開発や次のステージの資金獲得（例えばJSTやNEDOなど）をサポートします。これにはVC（ベンチャーキャピタル）やインキュベーションオフィスなども含まれます。